

おのでのりこ  
**小野寺 徳子**

職業安定局  
障害者雇用対策課長



キャリアストーリー

将来のハローワーク業務・システムのあり方を検討

ハローワークには日々多くの利用者が訪れ、窓口で対面による支援・サービスの提供が行われてきました。インターネットが普及し、「IT国家創造宣言」を政府が取りまとめる中、ハローワークも「原則来所による対面サービス」から、セーフティネットとしてのアクセシビリティを一層高め、利用者に対して利用の選択肢を増やすべく、インターネット上で求職・求人などの諸手続を可能とする見直しが求められました。現場職員からの反発は大きく、合意形成のため現場に足を運び、根気強く職員の方々と意見交換等をする中で、新しいハローワークの在り方について熱く語り合ったことが良い思い出になっています。

障害者雇用の新たなステージに向けた検討

我が国の障害者雇用は法定雇用率2.3%に対して実際の企業における雇用率が2.2%と大きく進展しました。障害の有無にかかわらず持てる能力を發揮し経済・社会の一員として活躍できる社会の実現を目指し、今後は「数」だけでなく、一人ひとりの雇用の「質」の向上と多様な働き方の推進を通じた障害者の就業機会の更なる確保を目指して、労働政策審議会障害者雇用分科会において、昨年から議論を重ね、今後の障害者雇用のあり方について取りまとめました。意見が対立する場面もありましたが、公労使そして障害者代表の四者が真摯に議論を重ね合意形成していくプロセスを支えることができたことは非常に貴重な経験となりました。今後は必要な法整備に向けて更に取り組んでいくこととしています。

平成2年

入省

平成14年

山梨労働局 職業安定部長

平成19年

職業能力開発局 能力開発課 課長補佐  
我が国の公的職業訓練施策の企画・立案に取り組む

平成22年

埼玉労働局 職業安定部長

東日本大震災後、埼玉に避難された被災者支援に尽力

平成27年

職業安定局

人道調査室・ハローワークサービス推進室長

平成29年

独立行政法人労働政策研究・研修機構 労働大学校 准教授

中央研修所として全国のハローワーク職員のスキルアップを推進

平成30年

職業安定局 首席職業指導官室  
首席職業指導官

大きな節目を迎えるハローワークの職業相談業務のあり方を検討

令和元年

職業安定局 障害者雇用対策課 参事官を経て現職

Q1

厚生労働省の人間科学職とはどのような職種なのでしょうか。

厚生労働省は人が生まれてから老後に至るまで全てのライフステージで国民の暮らしをサポートし、国民一人ひとりが安心して一生を送ることができる社会の実現を目指しています。人間科学職は中でも心理学、教育学、社会学等の専門的知見や視点を生かし「人と仕事」に関わる行政領域で活躍しています。マクロ・ミクロの両面からアプローチし、政策課題の発見、政策・制度の企画・立案、業務実行まで一貫した役割発揮が求められる「専門行政官」です。

Q2

具体的にはどのような仕事の領域がありますか。

本省では職業安定局、人材開発統括官をはじめとした各部局で、  
① 労働行政の第一線機関であるハローワークの職業相談、職業紹介業務、  
② 若年者、高齢者、障害者、生活困窮者、外国人労働者等の各対象層の特性を踏まえた就職支援施策、  
③ 企業に対する雇用管理業務指導、助成等の政策手段を組み合わせた雇用対策、  
④ キャリアデザイン支援、能力開発促進施策等の行政領域で政策立案等に携わるとともに、労働局、ハローワークに対する指導業務や、自らが労働局幹部としてマネジメント業務を行うこともあります。そのほか、関係団体等において研究職として活躍したり、在外大使館や国際機関に赴任して国際業務に就くこともあります。

Q3

人間科学職の仕事の一つに「政策の企画立案」ということがありますが、どのように行われるのですか。

現在はやはり新型コロナウイルスに関連する報道等が中心になっていますが、厚生労働政策は国民の経済、社会生活に密着し、深く関連する課題等に対して常に迅速に対応していくことが求められています。特に労働行政においては、労働者個人、企業等の双方を視野に入れながら、第一線機関を通じて把握できる現状等に加え、データエビデンス等から課題を的確に捉え、最適解となる政策手段を検討・選択し、要件・手続き等を具体化していくことが必要です。そのプロセスでは労使等関係者との合意形成が求められ、法案であれば各省協議や国会審議、予算であれば財政当局との折衝と様々な調整・協議をクリアしていく。さらにハローワーク等で執行していく場合には現場と摺り合わせを行うなどによりフィージビリティの検証も必要です。こうした政策、制度等は毎年度その効果の検証や結果を踏まえた見直しも求められ、常に最大限の行政効果を生む努力を継続し続けることになります。

Q4

人間科学職の魅力とは

社会課題の解決に向けて大きな枠組みを検討・実現し、社会を変えていくことで多くの国民の皆さんの幸福を実現していく政策立案に携わる「総合職」として活躍することも大きな魅力ですが、人間科学職はそれだけではありません。政策立案機関である本省と、本省で企画立案した政策、制度を直接国民に届けることができるハローワークという第一線機関とをつなぐパイプ役としての重要な役割を担っています。大局的な視点に立つジェネラリスト的な活躍と、個人志向的な感性も大切にしながら、専門性を発揮するスペシャリストといった両者の立場で活躍することができます。自ら企画立案した政策、制度に責任を持ち、実際にどのように国民一人ひとりに届いているか、その手応えを、現場を通じて感じ取り、誰かの役に立てているという実感を持てることも大きな魅力だと思います。

受験生へのメッセージ



「働く」ことは人が尊厳を持って生きていく上で重要な要素の一つです。持てる能力をしっかりと發揮して活躍できる社会の実現を目指し、一人ひとりの「働く」を支える人間科学職は非常にやり甲斐のある仕事だと思います。年々多様化複雑化する諸課題にスピード感を持って対応するため、変化に富んだ多様な職務にチャレンジできる刺激的な職場で、私自身もこれまで様々な政策課題に取り組む機会や仕事を通じた多くの出逢い等に恵まれ、充実した日々を過ごすことができたように思います。「他者」への深い関心や関わりを大切にす姿勢を持ち、「人のために」という熱い気持ちを持っているならこれ以上にふさわしい職場はないはずです。そんな皆さんとご一緒できる日を楽しみにしています。